百玉そろばんを有効に使ってみよう

単　　元	**授業の導入に使う。（特に単元は設けない）**	対象学年	1　年
ね　ら　い	１学期当初の学習内容に登場する場面とリンクしているところが多くあり，親しみをもって算数に接することができるようにする。		

1　準備するもの

教師：　百玉そろばん

※学校に児童用があれば，児童にも１つずつ用意できるとよい。

2　学習のしかた

百玉そろばんを出し，教師の操作と同時に唱えながら操作する。

（児童用の百玉そろばんがある場合には，手元で操作する。）

（１）順唱「１から数えます。カチって音がしたら，数えます。１，２，・・・10」

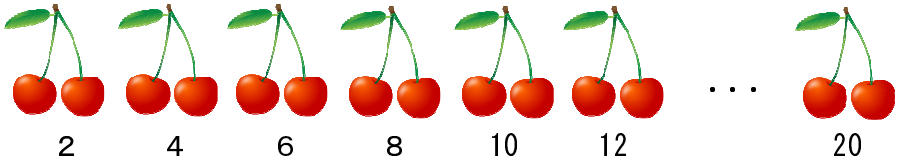
→慣れてきたら 20 まで数える。

（２）逆唱「10 からもどってこられるかな。10，９，８，・・・１」

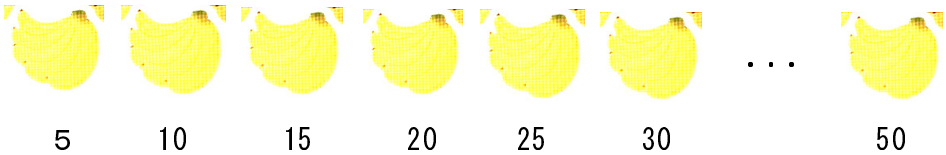
→①と同様，慣れてきたら 20 から数える。

（３）「２とびで 10 まで数えます。２，４，６，・・・10」

→慣れてきたら 20 まで数える。



（４）「５とびで 30 まで数えます。５，10，15，・・・30」

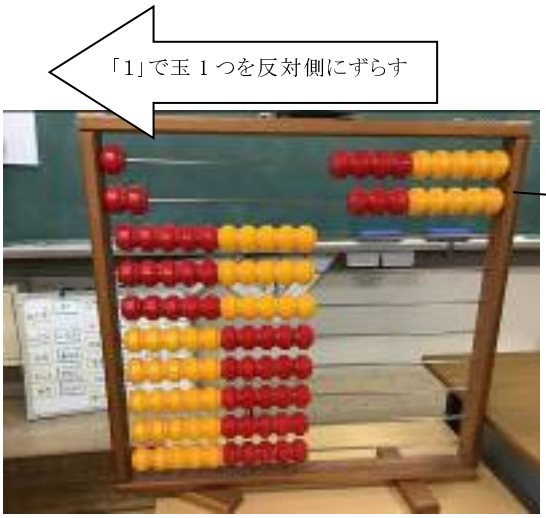


（５）「10 とびで 100 まで数えます。10，20，30・・・100」

（６）５の合成・分解

「１と４で５」「３と２で５」，「５は２と３」「５は４と１」など

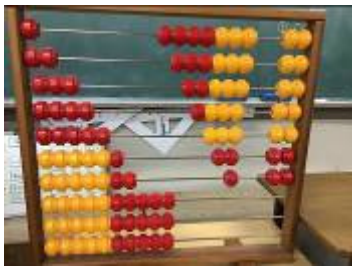
（７）10 の合成



1と9で 10

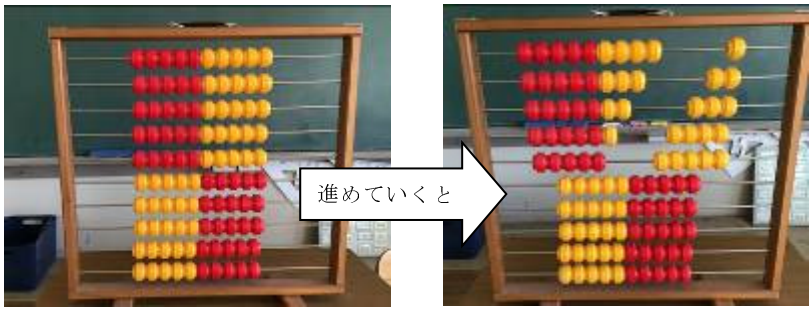
１を反対側に移動することで，視覚的に９つがもう一方に残っているのがわかり，続きの「１と９で 10」と答えることができる。

（８）６，７，８，９の合成（「いくつといくつ」を学習してから取り組むとよい。）



（左の写真は８の合成）
10 の玉のうち，使用しない２つの玉は，片方によけておけば合成前の数が 10 でなくても可能である。

（９）10 の分解



（左の写真は 10 の分解）
10 個の玉を中央に寄せ，「10 は，１」(と同時に玉１つを少しずらす)「と９」というように操作する。

3　学習上の留意点

・児童用の百玉そろばんがない場合は，グループで操作を行う必要がある。
・最初のうちは，百玉そろばんの操作に慣れず，戸惑う児童もいるが，毎時間授業の導入で扱うことで，数え方や数の合成，分解の理解につながる。

4　学習の効果

・「かずとすうじ」「いくつといくつ」の単元で，数の数え方や数の合成，分解の学習をしたり，「10 より大きいかず」「たしざん（２）」の単元で，10 のまとまりで数を数えたり，10 の合成・分解を使って計算の手順を考えたりするため，百玉そろばんを操作する活動は有効である。